



日本

開発貢献度指標（以下「CDI」）は、世界の最富裕国 27ヶ国を、各国の貧困国に便益を図る政策への献身度に基づいて順位付けしたものです。CDI は、海外支援資金を単純に比較することでは判断できない、開発途上国にとって重要な7分野である支援、貿易、投資、移民、環境、安全保障、および技術における、各国の政策を測定します。本報告書では、日本の2013年度 CDI 実績を検討します。詳細は、ウェブサイト cgdev.org/cdi をご覧ください。

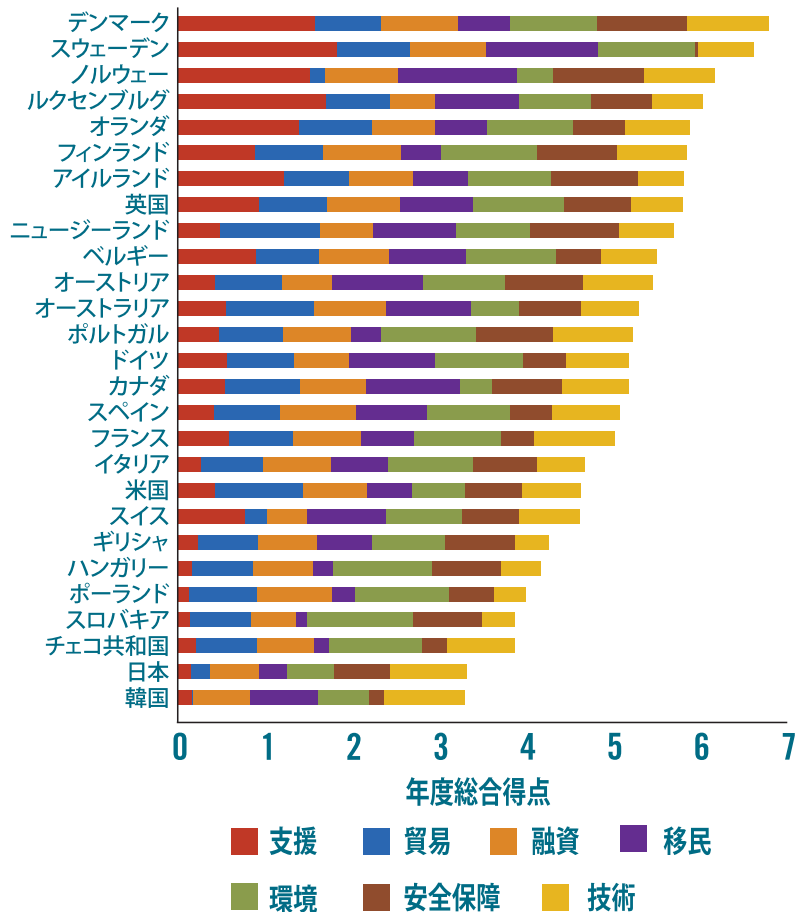
日本の2013年度CDI 実績

- 2013年度総合順位：第 26 位
- 2013年度総合得点：3.3
- 2003年度以降の増減：-0.8
(2013年現在の手法を使用)

2013 年度の日本の総合順位は第 26 位でした。開発途上国からの輸出に対する日本の貿易障壁は、CDI 対象国中最も高く（コメの関税が主因）、国民所得に対する海外支援金の割合も最小グループに入っています。また貧困諸国からの移民もほとんど受け入れていません。さらに、国際的に認知された安全保障活動に対する出資・人的貢献度も低レベルにとどまっています。日本は貧困国への投資を支援していますが、金銭的支援項目の得点は、金融機密指数における低順位が響き低くなっています。日本の最大の開発貢献は政府による研究開発援助で、その結果、技術部門で高得点を得ています。また、日本政府は、開発途上国からの留学生を多く受け入れ、武器を輸出していません。

www.cgdev.org/cdi

2013 年度開発貢献度指標

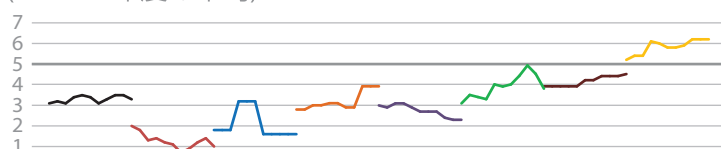


日本

総合得点 支援 貿易 融資 移民
環境 安全保障 技術



時間の経過に伴う日本の変化、2003～2013年度
(5 = 2012年度の平均)



支援

支援の質は支援の量と同様に重要です。したがって CDI は、次の様々な質的要因で調整した、対 GDP 総合支援金を測定しています。債務返済を差し引き、支援対象国に支援国の物品およびサービスのみに支出させる「タイアップ」支援は減点。貧困ながらも比較的規律ある行政を行っている対象国への支援は加算。貧困国政府に多数の小規模プロジェクトで負担をかける政策は減点。

■ 得点：1.0

■ 順位：第 25 位

長所

- 全面的および部分的なタイアップ支援の比率が低い (4.9%、第 9 位)
- 選択度では、貧困ながらもより規律ある行政を行っている対象国に対する援助の割合が比較的高い (選択度：第 2 位)

短所

- 経済規模に占める正味支援量の割合が低い (0.13%、第 22 位)
- プロジェクト数の拡大を促しているため、プロジェクトの平均規模が小さい (第 24 位)

貿易

国際貿易は、何世紀にもわたり経済発展の原動力となってきました。CDI は、開発途上国からの輸出に対する富裕国の貿易障壁を測定しています。コストのかかる輸入手続きと外国からのサービス購入に対する制限は減点します。

■ 得点：1.6

■ 順位：第 25 位

長所

- 農業助成金が少ない (輸入額の-0.5%に相当する関税に等しい：第 1 位)
- 牛肉にかかる関税が低い (輸入額の26.8 % に相当する関税に等しい：第 5 位)
- 繊維製品にかかる関税が低い (輸入額の5 % に相当する関税に等しい：第 2 位)
- 出荷用コンテナの輸入が比較的低価格である (コンテナ当たり 880 ドル、第 8 位)

短所

- 農産物にかかる関税が高い (輸入総額の105.6%、第 26 位)
- コメにかかる関税が高い (輸入総額の 479.9 %、第 27 位)
- 小麦にかかる関税が高い (輸入総額の 114.5 %、第 26 位)
- 各種サービスの輸入に数多くの制限がある (サービスの貿易制限指数の得点：24.7、順位：第 24 位)

融資

富裕国の貧困国への投資は、技術の移転、経営管理機能の改善、雇用の創出を可能にします。それとは逆に、企業と銀行の金融機密保持を認める政策は、不法行為と外国への金融資産の流出を促進します。CDI は、開発途上国に対する健全な投資を支援し、自国における金融の透明性を推進する政策に得点を与えます。

■ 得点：3.9

■ 順位：第 24 位

長所

- 政治的リスク保険機関は、広範囲に及ぶ保障を提供し、潜在的プロジェクトの人権、労働および環境の各権利への違反を審査する
- 開発途上国における投資機会を求める企業を支援する
- 賄賂支払者指数の得点が低い (順位：第 1 位)

短所

- 賄賂と腐敗行為の特定における怠慢
- 管轄内における違法金融取引を防ぐための規制が少ないため、金融機密指数における得点が平均より低い (順位：第 22 位)

移民

貧困国から富裕国への人の移動は、技術を持たない移民に職、収入、知識を提供します。これにより、海外に住む移民の本国送金による資金の流れを増大し、移民の帰国により技術の移転が達成されます。

■ 得点：2.3

■ 順位：第 23 位

長所

- 開発途上国からの留学生の割合が高い (77.7%、第8位)

短所

- 日本に入国する開発途上国からの移民数が少ない (人口に対する比率順位：第23位)
- 人道的危機に際しての難民受け入れ分担が少ない (第26位)

環境

富裕国は不均衡な量の希少資源を利用している一方で、貧困国は地球温暖化と生態環境悪化に対して、最も脆弱な立場にあります。したがってCDIは、地球の気候、漁業、およびバイオダイバーシティ（生物多様性）に関する各国の政策の影響力を測定します。

■ 得点：3.8

■ 順位：第 25 位

長所

- 国民1人当たり温室効果ガス排出量が少ない（二酸化炭素同等物の排出量：9.7 トン、第 11 位）

短所

- この10年間の温室効果ガス排出量の増加率が、GDP 成長率にほぼ等しい（平均年間成長率/GDP：-1.23%、第 25 位）
- 一人当たりのオゾン層破壊化学物質消費量が高い（第 25 位）
- ガソリン税率が低い（1リットル当たり0.61ドル、第 23 位）
- 生物多様性に関する多国間環境協定に基づいた強制的報告義務への順守が不十分（第 21 位）
- 熱帯雨林材の輸入量が多い（1人当たり31.18 ドル、第 27 位）

安全保障

安全保障は開発にとって必須条件であることから、CDI は、国際的に認可された平和維持活動や強制執行的な人道主義的介入への貢献、世界の海上航路に対する軍事防衛、および国際安全保障条約への加盟に得点を与え、貧困政府および非民主主義政府への武器輸出は減点します。

■ 得点：4.5

■ 順位：第 18 位

長所

- 貧困政府および非民主主義政府への武器輸出が皆無（対 GDP 比率順位：第 1 位）
- 主要な国際安全保障条約および体制への加盟
- 国連平和維持活動予算への相対的貢献度が高い（対GDP 比率順位：第 2 位）

短所

- 過去10年間に、国連平和維持および人道介入への人的貢献度が低い（対GDP比貢献度順位：第 26 位）
- 過去10年間に、国際的に認可された平和維持、人道介入への人的貢献度が低い（対GDP比貢献度順位：第 27 位）

技術

富裕国は、新技術の創出および普及を通じて開発に貢献しています。CDI は、研究開発に対する政府支援を測定し、新技術の貧困国への普及を制限する厳格な知的所有権制度に罰点を与えることにより、この分野を評価しています。

■ 得点：6.2

■ 順位：第 5 位

長所

- 研究開発に対する政府の積極的支援（第 5 位）
- データベースの著作権保護を制限している
- 研究目的のための特許除外を認めている

短所

- 植物品種および動物品種への特許権を認めている
- ソフトウェア・イノベーションへの特許権を認めている
- 著作権を取得したデジタル・コンテンツの暗号を解読できる、迂回禁止対象技術に対して厳重な制限を課している

内容の

2013 年度開発貢献度に関する全指標は、ウェブサイト cgdev.org/cdi でご覧いただけます。同サイトでは、インタラクティブな画像ツールを使用して各数値の詳細を検証したり、他の文献や背景報告書を開覧したりできるほか、データとコードのダウンロードにより、CDI 指標の作成手法を詳しく知ることができます。

2013 年度開発貢献度順位一覧

総合順位	国名	支援	貿易	融資	移民	環境	安全保障	技術	2012年度 からの変化
1	デンマーク	3	12	2	18	12	2	2	0
2	スウェーデン	1	6	2	2	3	27	17	0
3	ノルウェー	4	26	7	1	26	1	6	0
4	ルクセンブルグ	2	15	25	7	21	15	21	0
5	オランダ	5	5	16	19	13	19	12	0
5	フィンランド	9	8	1	21	4	5	7	1
7	アイルランド	6	14	14	16	15	4	23	2
7	英国	7	7	6	11	8	12	20	-1
9	ニュージーランド	15	1	22	8	19	3	19	-3
10	ベルギー	8	18	9	10	9	20	18	4
10	オーストリア	18	10	23	4	17	6	8	0
12	オーストラリア	13	2	8	6	24	14	16	-2
13	ポルトガル	16	17	10	22	5	7	4	-1
13	ドイツ	12	11	21	5	10	22	13	4
13	カナダ	14	4	13	3	27	9	11	1
16	スペイン	19	13	4	12	16	23	9	-4
17	フランス	11	16	10	17	11	24	3	-1
18	イタリア	20	20	12	14	14	13	22	0
19	米国	17	3	15	20	23	17	15	1
19	スイス	10	24	27	9	18	16	14	0
21	ギリシャ	21	23	19	15	20	8	25	0
22	ハンガリー	24	19	18	25	2	11	24	0
23	ポーランド	27	9	5	24	6	21	27	0
24	スロバキア	26	22	25	27	1	10	26	1
24	チェコ共和国	22	21	20	26	7	25	10	0
26	日本	25	25	24	23	25	18	5	0
26	韓国	23	27	17	13	22	26	1	1

□ = 上位 3 位 □ = 中間 3 位 □ = 下位 3 位

この表は、CDI 対象 27 ヶ国について、各国の 7 つの政策分野別の順位を示したものです。右端の列は、2012 年からの各国の総合順位変化を 2013 年度の手法を用いて示しています。

CDI について

『開発貢献度指標』は、世界開発センター (CDG = Center for Global Development) が、2003 年から年次で設計・公表しているデータです。CDG は、綿密な研究と政策立案者への活発な関与を通じて、世界の貧困および不平等の軽減に取り組む独立系シンクタンクです。同指標の監督者は、オーウェン・バーダー (CGD ヨーロッパ・ディレクター兼シニアフェロー) で、CGD シニアフェローを名誉退職したデイヴィッド・ロッドマンのこれまでの業績を引き継いでいます。CDI コーディネーターは、ペトラ・クリロヴァです。共同制作者は次のとおりです (カッコ内は担当分野)。ウィリアム・R・クライン (貿易)、セオドル・H・モラン、ペター・ヤンスキ (各投資)、ジーン・パタローバ、キンバリー・A・ハミルトン、エリザベス・グリエコ (各移民)、エイミー・カサーラ、ダニエル・プレーガー (各環境)、マイケル・E・オハンロン、アドリアナ・リンズ・デ・アルバカーキ、マーク・ストーカー、ジェイソン・オルダウィック (各安全保障)、キース・マスカス、ウォルター・パーク (各技術)。この指標は CDI コンソーシアムが後援しています。

Center for Global Development
世界の繁栄のための独自の研究と実証的なアイデア

www.cgdev.org

1800 Massachusetts Ave., NW • Washington DC 20036, USA

Tel: 202.416.4000 • Fax: 202.416.4050

London: c/o BMGF, 80-100 Victoria Street, London, SW1E 5JL, UK

